

日本分子生物学会年会における発表者の属性統計

～年会における女性のactivity向上を目指して～

**”学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性の比率は
学会員全体における比率と比べて低いのではないだろうか？”**

日本分子生物学会男女共同参画委員会はこのような疑問をもち、2009年度から年会発表者の演題カテゴリーごとの属性調査を行っています。今年度は一般演題からの口頭発表希望者割合の集計も行いました。

調査方法

- 1) 日本語でのオンライン演題登録時の記載事項の一部として、性別（男、女、選択なし）、職階、年齢層（5歳きざみ）を選択式の項目として設けた。
- 2) スピーカーを兼ねないオーガナイザーには個別にメールを送り調査した。

演題登録者数

一般演題（日本語）：3233題
ワークショップ（WS）：220題、シンポジウム（日本語）：129題/計349題

回答率

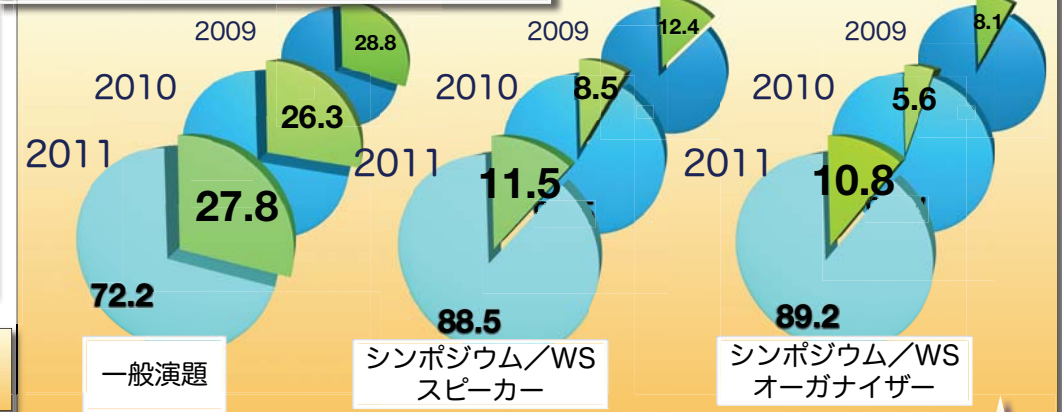
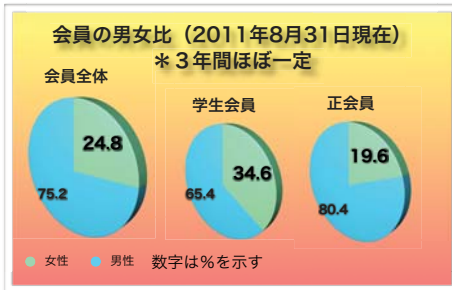
一般演題：95.4%
スピーカー(指定)：94.6%
オーガナイザー：87.8%

MBSJ2011開催概要

会場：パシフィコ横浜
会期：2011年12月13日-16日
演題登録期間：2011年8月1日-31日



集計結果1 カテゴリー別男女比



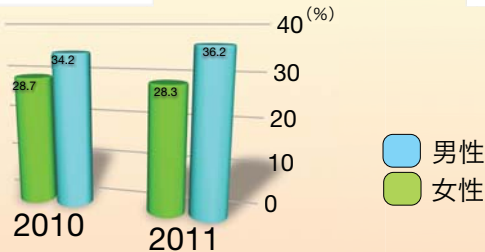
● 女性 ● 男性
*2010年は生化学会との合同大会

学会員全体と一般演題発表者の男女比は同等である一方、シンポジウム/WSのオーガナイザーやスピーカーは女性の割合が低く、正会員の女性率（19.6%）と比較してもその半分程度であった。しかし、昨年と比較すると女性の割合が増えており、積極登用呼びかけの効果が示唆された。

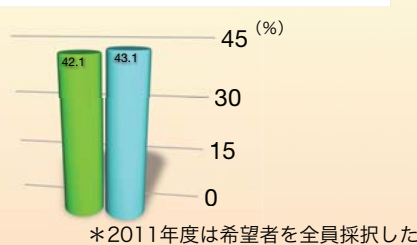
一般演題希望者のうち、口頭発表への採択を希望した割合は男性(約35%)に比べ女性(約28.5%)の方が低かった。希望者からの採択率(要旨内容により選抜)は男女同等であった。

集計結果2 一般演題からの口頭発表希望/採択率

口頭発表希望率

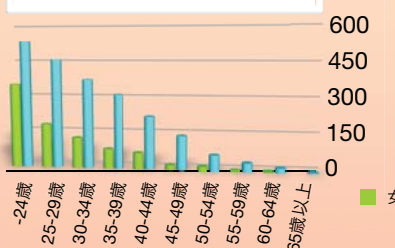


2010年度口頭発表採択率 (採択者数/希望者数)

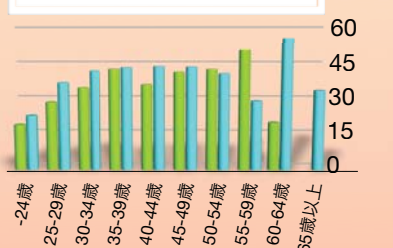


集計結果3 年齢層別一般演題数・口頭発表希望割合

年齢層ごとの一般演題登録人数 (人)



年齢層ごとの口頭発表希望率 (%)



まとめ

- 昨年度までの反省点をふまえ、今年度はスピーカーを兼ねないオーガナイザーに対しても個別にメールを送り属性調査を行った。その結果、回答率はオーガナイザーに関しても85%を超え、より正確な調査が可能となった。
- どのカテゴリーの男女比も昨年度からの大きな変化はなかった。シンポジウム・WSでの女性スピーカーの割合は約10%と低いが、昨年度よりは割合が増加しており、女性、若手の積極登用呼びかけの効果が示唆された。
- 新たな試みとして、2010、2011年度における一般演題登録者の中での口頭発表採択希望者の割合を算出した。その結果、男性は約35%が希望するのに対し、女性は約28%にとどまっていた。希望者のうちの採択者の割合には男女差はなかった。今後、年会における女性のVisibility向上のためには、女性研究者の積極性の向上が鍵の1つとなるだろう。